

講義名	研究演習 （経・人）		
講義コード	55414	授業形態	
担当教員	上瀬 真生		
	サンパリング・コード		

学部・学科	演習分野
経済学部・経済学科	上瀬真生ゼミナール(社会保障論)

概要説明
（１）テーマは「キャリアの展開と社会保障」 キャリアという言葉は、最近では職業人生を意味する言葉として使われることが多い。けれども、ここでは広く人生の展開を意味するものとして考えたい。その焦点は、たしかに一つには職業人生である。しかし、もう一つ、重要な焦点がある。それは家族の形成だ。職業人生と家族の形成。この二つを中心におきながら、現代日本社会におけるキャリアの展開を考え、さらにそれを支える社会保障のあり方を考えるのがこのゼミナールのテーマだ。 職業人生と家族の形成を二つの柱としたキャリアの展開はこれから皆さんが直面する課題だ。皆さんはなんとなく両親をはじめとした身近な大人をモデルにこの問題を考えているかもしれない。けれども、２０世紀末以降、日本社会におけるキャリア展開のあり方は大きく変化しているようにみえる。就職活動における「氷河期」と「売り手市場」化とのブレ、転職の増大、晩婚化・非婚化、少子化、等々。変化を感じさせる諸現象が新聞紙上、テレビのニュースでおどっている。このゼミナールでは、こうした諸現象の実態、背景・要因、これに対応するための社会保障のあり方などについて皆さんと一緒に考えていきたい。このことは、皆さんが自分のキャリアを構想するうえでもプラスになると思う。 なあ、この問題にアプローチするにあたって、文献資料をもとに考えるだけでなく、インタビュー等をつうじて、できるだけ実際のキャリア展開の経験をもとに考えるようにしたい （２）ゼミナールのステップ 研究演習（２回生後期） テキストの検討を中心にして、現代日本のキャリア展開についての見通し、さらには考えるべき問題や考える方法について学ぶ。同時に、資料の調査や発表、議論の仕方など、ゼミナールのための基本的な技術を身につける。２回生終了時にレポートを作成し、半年間で学んだことを振り返る。 研究演習（３回生） 前期はテキストの検討を続けるとともに、流通科学大学の先輩や身近な人生の先輩のキャリア展開についてインタビュー調査し、その結果をもとに現代日本におけるキャリア展開の実態とそれに対応する社会保障のありかたについて考える。また、これまでの学習をふまえて、各自、卒業研究のテーマを決定する。 後期は、各自テーマに沿って研究を進め、その進展状況を報告する。３回生終了時に卒業研究の第一次草稿を提出する。 卒業研究（４回生） ３回生時の第一次草稿をもとに卒業研究をしあげる。進路相談も実施。 （３）テキスト ゼミ生が確定した後に決定する。現在の３回生が検討したのは以下の文献。 中西新太郎監修 『フツーを生きぬく進路術 １７歳編』青木書店、２００５年 中西新太郎監修 『フツーをつくる仕事・生活術 ２８歳編』青木書店、２００７年

主な卒業論文のタイトル
「『聖地巡礼』が起こす経済効果」 「学生アルバイトの実態 流通科学大学と全国調査の比較」 「介護職の現状と今後について」 「児童虐待について」 「通勤とは何か」 「睡眠について」 「ゲームが見せる社会現象と影響力」 「外国人留学生の就職率引上げのために」 「ジェンダー問題と共に歩む男性像」 「ユーチューバーについて」 「コロナ禍のGOTOトラベルによる経済への影響」 「エリートビジネスマンはなぜ筋トレをしている人が多いか」 「子どもの貧困の現状」 「二度と、このような可哀想なことが起こらないように。」

教員よりの要望
毎日、新聞を読むこと。世の中の動きを知っていることは、これからの人生選択にとって大切な土台。１０分でもいいから毎日必ず新聞の一面に目を通してほしい。 できるだけ本を読むこと。本は、自分の直接の経験をはるかに越えて経験の幅を広げる。本を読むことに時間を使ってほしい。 自分の意見をはっきり述べること。これからの世の中、自分の意見を述べなければ生きていけない。他人の意見をよく聞き、同時に自分の意見をきちんと述べる人間をめざしてほしい。 活動的であること。積極的、活動的、つまり元気にいろんなことにチャレンジしてほしい。学生時代は短い。充実した学生生活をおくってほしい。 卒業研究をおこなうこと。卒業研究は学生時代の最大の事業。これをやらないと大学時代は終わられない。

選考方法
基本的に「来る者拒まず」。ただし、「ゼミ運営の主体は学生だ」という意識をもって積極的にゼミで自分の力を発揮しようとする人に来てほしい。選考が必要な場合（志望者が１６名程度を超える場合）は個別ガイダンスでの面接による。 ３回生時の編入についても同様。

評価方法
研究演習： 日常のゼミ活動とかんたんなレポートで評価する。 研究演習： 日常のゼミ活動と卒業論文をみずえた３年次レポートで評価する。 卒業研究： 卒業論文で評価する。
教員英字氏名
Kotaki Masao 研究棟 2613研究室
最終学歴
京都大学大学院経済学研究科博士後期課程学修退学
学位
経済学修士
主な研究活動・社会活動・研究業績
１９９０年代後半以降の日本経済の変化の中で企業がどのような雇用・人事戦略を展開したか、そのなかで働く人々の労働と生活がどのように変化したか、を中心に研究している。その成果は以下のとおり。 『ウィズCOVID-19の経済』『唯物論と現代。2021年10月 『資本のもとで働く』『経済』2015年5月 『資本主義のしくみ』『資本論』を基礎に現代資本主義を考える』京都労働者学習協議会、2013年10月 『法上研究会・資金論の現代の展開を考える』（上）（中）（下）『経済』2007年8月～10月 『総額人件費管理と労働者生活・現代の賃金と労働者の世代的再生産・』『経済』2005年2月 『賃金制度の変化と社会的な収入再分配の課題』『流通科学大学論集・経済・経営情報編』第12巻第3号、2004年3月
趣味・特技
映画鑑賞。京都の小さな映画館でマイナーな映画を見るのが好き。2020～22年度は大学における新しい生活様式への対応に追われ、なかなか映画を見ることができなかった。その間、Amazon Prime Video や NHK オンデマンドで古い映画やドラマを鑑賞して、わずかな潤いを得た。 歌うこと。通勤途中や帰宅途上、歌いながら歩いている。ちょっとあやしい人と思われているかもしれない。 お酒。夜のおいしいお酒は大切なお友だち。
所属
経済学部 経済学科
所属学会
社会政策学会、経済理論学会
専門分野
日本の社会保障、生活問題、労働問題
担当科目
教養特講 （働くことを考える）、経済学入門、社会保障論、日本経済論
備考
【ゼミ生からのメッセージ】 上瀬ゼミは、他の人とコミュニケーションを取ることが苦手だと思っている人や、人前で発表したり発言したりすることが苦手な人にオススメです。ゼミの内容は、グループで新聞・ニュースの発表やグループ活動など、人前で発表したりグループの人と意見交換を行ったりすることが多いので、コミュニケーション能力の向上させることができます。（2022年度研究演習 ゼミ生） 上瀬ゼミは現代日本のキャリア展開について理解を深め、そこでどういった問題があるのかを考える活動を行っている。その過程で自分から発表するといった機会が多いため、発表や文章を分かりやすくまとめる事が得意じゃないって人ほど向いていると思う。また、グループワークをメインにしているため、他人と力を合わせることも重要になってくる。苦手な人からしたら難しい事だが、ここ上瀬ゼミで挑戦するのでもいいかもしれない。（2022年度研究演習 ゼミ生） このゼミは自ら新聞を読み現代の流れを詳しく知り、それらをゼミの仲間たちと共有しながら様々な意見を聞いて、自分の考えを固めることができるゼミです。新聞の中のニュースを読み解くのはむずかしい課題ですが、みんなで協力してそのニュースについて考えたり、討論したりすることが出来ます。なので、現代社会に関心をもっている人などにはとてもおすすめです。（2022年度研究演習 ゼミ生）
実務経験の有無及び活用
なし。